Short ショートコメント ★★★

# 白夜　４Ｋ

1971 年／フランス・イタリア映画
配給：エタンチェ、ユーロスペース／83 分

| 2025（令和 7）年 3 月 20 日鑑賞 | テアトル梅田 |
|---|---|

Data　２０２５－３２

監督・脚本：ロベール・ブレッソン
原作：ドフトエフスキー
出演：イザベル・ヴェンガルテン／ギヨーム・デ・フォレ／ジャン＝モーリス・モノワイエ

## みどころ

**ドストエフスキーの短編小説『白夜』（1848 年）は悲恋物語だが、『ロミオとジュリエット』ほど有名ではない。私見によれば、それは同じ悲恋物語でも、結末のあり方がイマイチなためだが、舞台を現代のフランスに置き換えた本作の出来は？**

**憂いに満ちた若く美しい女性を発見すれば、若い男が声をかけるのは当然。身の上話を始めるのも当然だが、それがなぜこんな悲恋物語に・・・？「女心と秋の空」とはよく言ったものだが、本作のそんな結末をあなたはどう受け止める？**

――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――

◆ドストエフスキーの『罪と罰』（1866 年）は、人生を考える上ではもとより、法律を学ぶについても必読の小説。また、ドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』（1880 年）は、『罪と罰』を超える、人生を考える上での必読の小説だ。

他方、ドストエフスキーの短編小説『白夜』（1848 年）の舞台は、帝政ロシア時代の首都・サンクトペテルブルク。物語は、白夜のある晩、橋のたもとで、一人の少女と出会った不器用で孤独な青年が少女に恋心を抱き、逢瀬のたびに気持ちは高まるものの、少女の婚約者が現れ、その思いはあえなく散ってしまう、という失恋物語だ。

◆他方、イタリアの巨匠ルキノ・ヴィスコンティ監督の『白夜』（57 年）は、タイトルどおり、ドストエフスキーの短編小説『白夜』を原作としたフランス、イタリア合作映画で、その時代と舞台は、現代のイタリアの、ある港町、とされていた。あっと驚くのは、同作の冒頭に登場する若い男の役を若き日のマルチェロ・マストロヤンニが演じていることだ。

他方、今回 4K レストア版でリバイバル公開された本作も、1971 年にフランス・イタリア合作映画として製作されたもので、原作は同じドストエフスキーの短編小説『白夜』だが、ヴィスコンティ監督版とは舞台も登場人物も違っている。本作の舞台は、パリのセー

ヌ河畔とポンヌフという小さな町。そして、本作ではヴィスコンティ監督版でマストロヤンニが演じた若い男は、ギヨーム・デ・フォレ演じる画家ジャックとされている。

◆もっとも、本作の主役は画家のジャックではなく、冒頭セーヌ川にかかる橋ポンヌフで思い詰めた表情で立っている、若くて美しい女性マルト（イザベル・ヴェンガルテン）だ。ストーリーが進むにつれて、マルトがなぜ今そこでそんな思い詰めた表情で立っているのかが明かされてくるので、それに注目！

フランスのパリ（の近く）で画家を目指している若者といえば、名曲『百万本のバラ』(87年）を思い出すまでもなく、一方で貧乏と相場が決まっているが、他方でハンサムと決まっている。今にも自殺するのではないかと見間違うかのようなマルトの姿を見て、ジャックが声をかけたのは当然だが、たちまちこの美男美女は恋に・・・？『ロミオとジュリエット』ならそんな展開だが、マルトとジャックはさて・・・？

◆東京と同じく、パリ（の近く）の住宅事情は大変らしい。したがって、ジャックは賃借中のアトリエをそのまま住居として使っていたし、マルトの方は、家賃を稼ぐため母親がドアで仕切られた部屋を、“とある目的”も兼ねて（？）若い男に賃貸していた。なるほど、なるほど・・・。

白夜の夜に、ひょんなきっかけで知り合ったジャックとマルトは互いに“身の上話”を始めたが、そこでマルトがジャックに語ったのは、賃借人（下宿人）の若い男（ジャン＝モーリス・モノワイエ）との恋と別れの物語。そして、1 年後の今日、この時刻、この場所で再会しようと固い約束を交わしたために、マルトがあの場所に物憂げな表情で立っていたということだったから、大変だ。さあ、あの賃借人（下宿人）の若い男は 1 年前に交わした約束を忘れてしまったの？それとも・・・？

◆「女心と秋の空」は、女の心と秋の空模様は共に変わりやすいこと、つまり、女心が移ろいやすいことを秋の空になぞらえた言葉だ。また、ヴェルディ作曲の歌劇『リゴレット』第 3 幕で歌われる『女心の歌』の冒頭の歌詞、「風の中の　羽のように　いつも変わる　女ごころ」も、全く同じ意味だ。本作ラストに見るマルトの“揺れ動く女心”を見ていると、ドストエフスキーも女心についてそのように考えていたこと（？）がよくわかる。

マルトはいくら待っても 1 年前の約束どおり目の前に現れてこないかつての恋人に今やっと見切りをつけ、ジャックとの間に生まれた新たな恋に身を委ねる決心を！ジャックも私もそう思ったのも束の間、その直後に彼を発見すると・・・？私は昔から短編小説『白夜』の恋物語（非恋物語）としての価値をイマイチと思っていたが、その理由は同作のそんな結末にある。さて、あなたの考え（恋愛感？）は如何に？

2025（令和 7）年 3 月 24 日記